

報告者：OSCN 寺尾正継

日時：平成 30 年 8 月 29 日

会場：名古屋国際センター

主催：環境省中部地方環境事務所

共催：(一般社団法人) イクレイ日本

SBI (Smart Bike Initiative) や Cool Choice 国民運動で後援頂いている環境省中部地方環境事務所主催の地球環境を考えるカンファレンスに参加して参りました。講演会では、第五次環境基本計画の内容について、環境省担当者からの説明や、川崎市・鎌倉市・長野県での行政としての環境改善に関する取組などの事例紹介がありました。

今夏は、雨が降れば「命に関わる危険な大雨」、晴れば「命に危険を及ぼす暑さ」が日常的となり、「夏にご用心♪」(桜田淳子) じゃないですが、エアコンが無いと命を落としかねない「とっても危険な夏」でした。今年程、温暖化による異常気象を意識させられた年は無いでしょう。この夏の終りに当カンファレンスに出席して参りましたので、簡単に所感をご報告いたします。

議題と内容：

※主催共催者側のプログラム内容は後記環境事務所 HP をご確認ください。

「第五次環境基本計画（地域循環共生圏）と気候変動対策による自治体のこれからを考える」

- ① (講演) 第五次環境基本計画について 環境省大臣官房環境計画課 担当官
- ② (事例紹介 1) 川崎市の気候変動対策について 川崎市環境局地球環境推進室 担当者
- ③ (事例紹介 2) 持続可能な都市経営「SDGs 未来都市かまくら」の創造 鎌倉市共創計画部企画計画課担当者
- ④ (事例紹介 3) 長野県の取組について～小水力発電事業の支援～ 長野県環境部環境エネルギー課 担当者

● 「SDGs?」「RE100?」「マルチベネフィット?」

そもそも自分は「カンファレンスって何?」「SDGs?」「RE100?」「マルチベネフィット?」「はあ…」という人間ですが、これらの言葉は知っていて当然という前提で「会議」は進行して行きます。ちなみに「SDGs を初めて知ったという方は?」と問われ、手を上げたのは私を含め三～四人程度でした(会場のほとんどの皆さんはご存知でした、笑)

ということで、まずは用語をかたん解説。

- ・「SDGs」(エスディーズ)・・・【Sustainable Development Goals】の略。持続可能な開発目標。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成する為に掲げた地球環境改善目標。
- ・「RE100」(アールイーヒャク)・・・【Renewable Energy 100%】の略。事業運営に必要な電力のすべてを再生可能エネルギーで賄うことを目標に掲げる企業が参加する国際的な取り組み。2014年発足、世界各国138社が参加(2018年7月現在)。再生可能エネルギーの導入実績を毎年公表する。
- ・「マルチベネフィット」・・・地球温暖化対策等の環境対策が、排出ガス削減→温暖化抑制という1視点のみならず、地球上で人類が持続的に生活していく上で、産業振興、防災対策、健康維持等、多角的な分野に寄与するということを目標としたことば。

● 「第五次環境基本計画」・「地域循環共生圏」って

環境省の方の説明では「環境基本計画」とは「国」が定めたもので、平成6年の「第一次…」から始まり、平成30年の4月に「第五次…」が定められたと言う事です。第一次から第四次まではどのような内容の計画で、どの程度達成されているのかは、ここでは不明でしたが(過去の中部カンファレンスでやったのかな)、とにかく今年の「第五次…」は「地域循環共生圏」なるものを各地域で構築しようという事らしいのです。

「地域循環共生圏」という言葉はずいぶん堅苦しく感じますね。食料からエネルギー、ゴミ等も含め、あらゆる物を一定の地域で循環させましょう、という事でしょうか。昭和30年代あたりまでの日本の各地方では、それに近い生活だったのではないのでしょうか。世界の中の一地域という視点で日本を捉えれば、江戸時代の日本なら、ほぼ完全な「地域循環共生圏」と言えるでしょう。しかし、現代では色々と複雑な要因がそれを難しくさせているようにも感じます。

● 三つの自治体の取組は

この日の「会議」では、三つの自治体「川崎市」「鎌倉市」「長野県」のそれぞれが、「SDGs」の目標に沿って取り組み、その経過・成果を報告発表、後に「ディスカッション」がありました。

三つの自治体がそれぞれに持っている問題点、逆に得意分野・長所、それに依った取り組み方に特色が出ていた事は面白かったです。

特に長野県が取り組む「小規模水力発電」の内容を、もうちょっと深く紹介して欲しかったのですが、時間が不足し、後半は端折られてしまい残念でした。いずれにしても、まだまだ模索中という印象でした。

● 人間の生き方そのものにも関わる事

環境問題を突き詰めれば、社会・経済・産業界の構造変革・・・それら人間の生き方そのものにも関わる事の変革は避けて通れないはずですが、そこについては今回の議題には含まれていないので、その点には自分には物足りなく感じました。

産業革命時から 2030 年までの地球の平均気温の上昇を+2℃までに押さえると、2015 年にパリ協定で定められたということです。これは思い切った高い目標値らしいですが、逆に言うと、これを達成出来なければ、かなりヤバイと言う事でしょうか。2018 年の段階で、すでに現状のような有様ですからね。

こういった状況の中、自治体や我々に出来る事は実にささやかです。

しかし、出来る事からコツコツと・・・を世界中で、という事でしょうか。

以上、カンファレンス聴講報告といたします。 (寺尾正継 2018 年 8 月 31 日)

● 参考文献 「地球温暖化に関する中部カンファレンス」の総合案内ページをご覧ください。

※ 以下[]内 環境省中部地方事務所 HP より抜粋

☆ 中部カンファレンスでは、会場で聴講されたことや、下記総合案内ページに格納してある資料について
どんどん広げてください。今回のカンファレンス各説明資料もすべて下記 HP より閲覧拡散可能です。

(ア) 今までご登壇していただきました講師の方々の説明資料等を見ることができます。(過去回分も含む)

(イ) 「開催案内」や今後の予定をいち早く知ることができます。

※ 中部カンファレンスでは、地球温暖化対策関係の「話の出所」である方々に講師をお願いしています。

会場で聴講されたことや、専用ページに格納してあります資料については、どんどん広げてください。

(「地球温暖化に関する中部カンファレンス」の総合案内ページは下のバナーをクリック)

URL : http://chubu.env.go.jp/earth/post_20.html



(主催者の環境省中部地方環境事務所のページは下のバナーをクリック)

URL : <http://chubu.env.go.jp/>  環境省中部地方環境事務所

● (紹介) 小中学生向け 地球温暖化の意識啓発アニメ「ガラスの地球を救え！」

この度、小中学生を対象とした地球温暖化の意識啓発アニメ『ガラスの地球を救え!』について、映像媒体の貸出及び広報資材の提供を開始いたしましたのでお知らせいたします。貸出等の手続きの詳細は(一社)日本動画協会『アニメ NEXT_100』内に設置のウェブサイト (URL: <http://chikyuproject.jp/>) 又は COOL CHOICE ウェブサイト (URL: <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/>) をご覧ください。

本件担当：環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室

